

日本脳炎予防接種説明書 (予防接種と子どもの健康)

日本脳炎予防接種を実施いたします。以下の注意事項をよく読んで受けてください。

(この「日本脳炎予防接種説明書」は予防接種の対象者に立川市が配布している冊子『予防接種と子どもの健康』に代わるものです。接種前に必ず読んでください)

1 対象者 (1) (2) とも接種日に立川市に住民登録のある方

(1) 第1期 3歳以上7歳6か月に至るまで

* 7歳6か月に至るまでとは、4月1日生まれの方の場合、7歳の年の9月30日までとなります。

(2) 第2期 9歳以上13歳未満

* 13歳未満とは、13歳の誕生日の前日までとなります。

* 平成19年4月2日以降生まれの方には、9歳の頃に第2期の問診票等を個別送付する予定です。

※「平成7年4月2日～平成19年4月1日生まれの方」「平成19年4月2日～平成21年10月1日生まれの方」については、日本脳炎予防接種の特例措置の対象者に該当しますので、定期接種を受けられる期間が拡大されています。詳しくは別紙「日本脳炎予防接種の特例措置について」をご覧ください。

2 実施期間 通 年

3 実施方法 4 ページの実施医療機関に母子健康手帳および問診票を持参し接種してください。

日本脳炎予防接種は第1期初回接種2回・第1期追加接種1回・第2期接種1回の計4回の接種になります。

<接種間隔と標準接種年齢について>

◆第1期初回接種…6日以上、標準的には6日～28日の間隔をおき2回接種。

(標準接種年齢3歳)

◆第1期追加接種…初回2回接種終了後、6か月以上、標準的にはおおむね1年を経過した時期に1回接種。

(標準接種年齢4歳)

◆第2期接種…第1期接種終了後、9歳以上13歳未満で1回接種。

(標準接種年齢9歳)

* 接種間隔は、必ず守るようにしてください

* 検温は医療機関で行ってください

4 実施場所 実施医療機関（4 ページ、事前に予約してください）

5 受診できない方

保護者が同伴しない場合（保護者とは親権を行う者または後見人のこと）
※13歳以上で「保護者が同伴しない場合」の問診票及び同意書に必要事項を記載して医療機関に持参した場合、及び既婚者の方は保護者の同伴は必要ありません

6 接種前の注意

- ① この説明書を必ず読んでから接種してください
- ② 接種前から健康状態によく注意し、少しでも体調が悪ければ接種しないでください
- ③ 接種前日は入浴し、接種当日は清潔な肌着を着用してください

7 接種不相当者と接種要注意者

* 予防接種を受けることができない者

- ① 明らかな発熱を呈している者
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- ③ 接種しようとする接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことが明らかな者（アナフィラキシーとは接種後30分以内に起こる重い即時型のアレルギー）
- ④ その他、医師が不相当な状態と判断した場合

* 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない者

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する者
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた者、又は全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある者
- ③ 過去にけいれんの既往のある者
- ④ 過去に免疫不全の診断がされている者及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる者
- ⑤ 接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーを呈するおそれのある者
- ⑥ 女性の方について、妊娠している者またはその可能性がある者は、原則的に接種できません。ただし予防接種の有益性が危険性を上回ると医師が判断した場合のみ接種できます

8 予防接種の接種間隔

(1) 予防接種の間隔

注射生ワクチン（BCG、麻しん風しん、水痘、（おたふくかぜ（任意接種））から注射生ワクチンを接種する場合は、27日以上の間隔をあける。それ以外のワクチンについては、接種間隔の制限はありません（令和2年10月改定）。

※同じ種類のワクチンを複数回接種する必要がある場合は、それぞれ定められた間隔をあける

(2) 疾病罹患後の間隔

麻疹については、治癒後4週間程度の間隔をあける。

風しんや水痘およびおたふくかぜについては、治癒後2～4週間程度の間隔をあける。

その他のウイルス性疾患（突発性発疹、手足口病、伝染性紅斑等）については、治癒後1～2週間の間隔をあける。

9 接種後の注意

- ① 接種後30分間は、ショックや重いアレルギー症状がおこることがありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
- ② 接種部位は清潔に保ちましょう。接種後1時間以上経過すれば、入浴をしても差し支えありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ③ 接種後に高熱やけいれんなどの異常が現れた場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ④ 接種後1週間は体調に注意しましょう。また接種後腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ⑤ 接種当日は激しい運動はさけてください。

10 予防接種の有効性

予防接種は、その病気にかからないことを目的にしていますが、受ける人の体質、その時の体調などによって抵抗力（免疫）ができないこともあります。

抵抗力（免疫）ができたかどうかを知りたい場合には、血液をとって血中の抗体を測定（有料）すれば、わかる場合もあります。

11 日本脳炎の症状

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ヒトから直接ではなくブタの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され感染します。6～16日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。

流行は西日本地域が中心ですが、ウイルスは北海道など一部を除く日本全体に分布しています。この地域で飼育されているブタにおける日本脳炎の流行は毎年6月から10月まで続きますが、この間に地域によっては80%以上のブタが感染しています。以前は小児、学童に発生していましたが、予防接種の普及などで減少し、最近では予防接種を受けていない高齢者を中心に患者が発生しています。

感染者のうち100～1,000人に1人が脳炎を発症します。脳炎のほか髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいます。脳炎にかかったときの死亡率は約20～40%で、神経の後遺症を残す人が多くいます。

12 副 反 応

副反応としては接種後3日以内に、発熱や咳嗽、鼻漏がみられることがあります。局所の副反応として、発赤、腫脹（はれ）がみられることがあります。

その他にショック、アナフィラキシー様症状、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳症、けいれん、急性血小板減少性紫斑病などの重大な副反応が報告されています。

高熱、けいれん、その他異常な症状がみられた場合は、すみやかに医師の診察を受けるとともに、その結果を健康推進課まで連絡してください。

お問い合わせは 立川市福祉保健部健康推進課（TEL 042-527-3272）